

■ 提案名

「OS カード型デジタル教科書」導入による 学習の見える化・個別最適化支援

■ 目的(Why)

- ・ 児童の学習を 単元ごとではなく“構造(OS)”で理解させるため
 - ・ 紙教材では不可能だった 理解度の可視化・データ蓄積・個別支援 を実現
 - ・ 市として 低コストで未来型教育モデル を構築するため
-

■ 概要(What)

OS カード(学びの核) + デジタル自己評価システム(保存／読み込み可能)
を使い、児童の理解度・課題・成長を 1 ページで把握できる仕組み。

- ・ 1 ページ完結のデジタル教科書
 - ・ 児童と先生の「同一基準による数値評価」
 - ・ コメント＋スコアが保存され、翌年度に引き継ぎ可能
 - ・ 科目・学年を差し替えるだけで全校展開可能
-

■ 期待される効果(Effect)

1) 授業改善

- ・ 子どもが「どこが分かっていないか」が見える
- ・ OS に沿った授業設計で、教科書読み上げ型を脱却

2) 児童の自己調整学習

- 自分の理解度を把握して次の行動につなげられる
- 個別最適化の基礎データになる

3) 保護者・個人面談の質が向上

- 教師評価・児童評価が **同じ数値軸**
→ 進歩・課題が明確(「何となく」ではなくなる)

4) 行政コストほぼゼロで導入可能

- HTML ベースのため、高価なシステム不要
 - 市内全校で共通フォーマットとして採用可能
-

■ 導入方法(How)

1. 市教育委員会が「OS カード標準版」を承認
2. 各校が学年・科目ごとに必要なカードを選択
3. Web ブラウザで使用(Chrome／Safari)
4. 児童は各自のタブレットで入力・保存
5. 先生はファイルを集計し、学級・学年で共有

※ICT 環境が弱い学校でもそのまま運用可能

■ 必要経費

0 円(市内の既存 ICT 環境のみで運用可能)

- システム開発費: なし
 - 年間保守費: なし
 - ランニングコスト: なし
-

■ なぜ今なのか(Timing)

- 文科省のデジタル教科書が“構造化”されていない
 - 中央ではなく **地方が教育改革の主導権を握る時代**
 - 「小規模自治体×即断即行」の方が成功しやすい
-

■ 市へのメリット(Local Impact)

- “教育の見える化モデル都市”を名乗れる
 - 外部講演・視察の誘致
 - 人口減少地域でも教育ブランドを確立
 - 低コストで“未来型教育”を実践する自治体として発信可能
-

■ 添付資料(必要に応じて)

- 小4 デジタル教科書 OS カード例
- 自己評価フォーム(HTML)
- 活用イメージ(授業・個人面談)